

## 題材名「平行四辺形の面積」

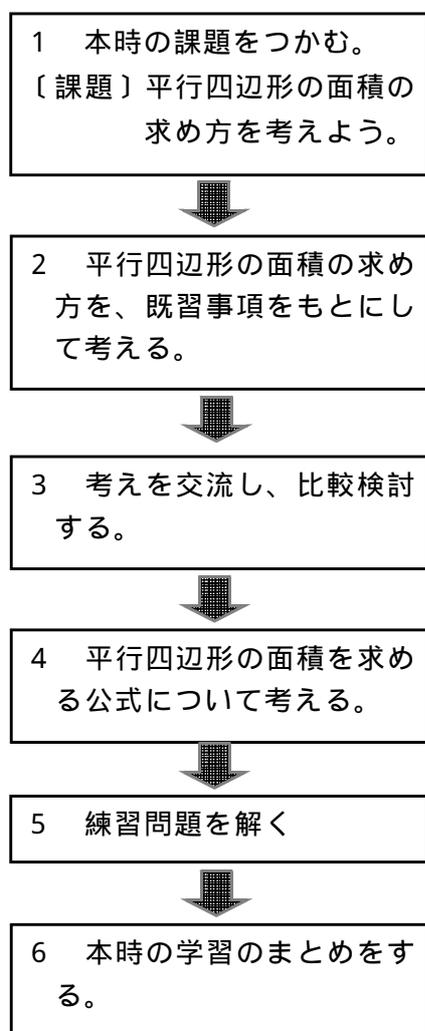
### 目 標

- ・既習事項をもとにして平行四辺形の面積の求め方を考えようとする。
- ・平行四辺形の面積の求め方の公式を理解し、それを使って面積を求める。

### ICTを活用する利点

これまで、算数の学習において、自力解決の後、考えを交流し、比較検討する場面で、自分の考えを発表用ボードに書くのに時間がかかってしまうことが課題となっていた。そこで、実物投影機とプロジェクターを使って、自分の考えを書いたノートそのまま映したり、映した図を操作したりしながら説明するようにした。これにより、発表者が考えを発表用ボードに書くのをほかの児童が待つ時間がなくなり、さらに、黒板を使う場合に比べて、発表者が図をスムーズに操作できるようになる。

### 授業の流れ



### ICT活用場面

自力解決の後、平行四辺形の面積の求め方についての考えを交流し、比較検討する場面で、実物投影機とプロジェクターを活用した。考えや理由をまとめたノートや平行四辺形の図を実物投影機で提示し、発表者はそれを指し示したり、操作したりしながら、自分の考えをみんなに伝え、話し合いを行った。



ここでは、A 対角線を引いて三角形に分割する考え方、B 長方形に等積変形する考え方、C 2つの直角三角形と長方形に分割する考え方が出された。Aの考えの児童は、図に直接対角線を引き、ノートの式と照らし合わせながら説明した。Bの考えの児童は、切った直角三角形のを反対側にずらして長方形に変形する操作を映しながら説明した。Cの考えの児童は、底辺に垂直な直線を2本引き、ノートを提示しながら式の表す意味を説明した。

### 成果と課題

発表者がノートにまとめた自分の考えを発表用ボードに書き直す時間が節約でき、話し合いの時間を十分にとれるようになるとともに、児童による図の操作もスムーズにできるようになった。また、ノートをそのまま提示するようになってから、分かりやすく、見やすいノート作りを一層意識できるようになった。

それぞれの考えを1つの画面で比較できるように工夫したり、書き込みのできるスクリーンの活用などより分かりやすい提示の仕方を工夫することが、今後の課題である。

### ICT活用環境等

使用周辺機器	実物投影機，プロジェクター
使用ソフト名	なし
使用教室	普通教室